International Student Center News

金沢大学

留学生センターニュース

Vol. 15

December 2011

金沢大学留学生センター企画
TOEFLセミナー 2011年

留学生実地見学研修 2011
（奈良・京都）

ジャパン テント 2011「日本武道体験・杖道」
（協力：金沢大学・留学生センター）

新しく開講した医学部日本語補講中級クラス

金沢大学附属小学校の交流授業

金沢大学留学生による大樋焼茶器展2011
（石川国際交流サロン）

東日本大震災とプログラム改革

志村　恵（留学生センター長）

３月11日の東日本大震災は、わたしたちに社会の在り方や生き方そのものを問い直さざるをえないような大きな影響を与えました。地震、津波、原子力発電所の事故の直後、金沢大学留学生センターも所属留学生の安否確認を行ったり、ホームページに安全情報を掲載したりと、いくつかの対応策を取りました。現在、大学全体としても連絡体制の見直しや強化を進めていますが、本センターも全学の留学生の安全・安心のため、また本学から協定諸大学へ派遣される学生の安全・安心のため、より実効力のある安全管理体制を築いていかなくてはなりません。安心こそが充実した留学の前提だからです。そのためにも、全国の留学生センター・国際センターと連携・協力していきたいと思います。

一方、金沢大学留学生センターでは、2011年度、本学の国際化・国際交流の進展のため、いくつかの改革を行いました。

一つ目は、日本文化プログラムの改革です。従前各プログラムに抱え込まれるような形で実施していた日本文化プログラムを共通のプログラムに組み直し（10のコースが生まれ、学生は自分での好きなコースを履修することができるようになった）、汎用性が効くようにしました。この新しい日本文化プログラムはセンター所属の留学生だけではなく、全学の留学生に開かれているのみならず、日本人学生も履修できるものとなりました。特に、国際学類と学校教育学類の学生は専門科目としてもこの日本文化プログラムを履修することができるので、留学生と日本人学生の授業内での交流が進展することを期待しています。

二つ目は、３週間のショートステイプログラムを開設したことです。12月末から１月中旬にかけ、アメリカ合衆国の３つの協定大学（１大学は協定締結作業中）から９名の学生を迎えて、日本語と日本文化を学ぶプログラムを実施しました。このプログラムでは、日本人学生をアテンド学生として活用したほか、ホームスティも実施、授業と生活と学生交流の三位一体で日本語と日本文化の勉強を堪能してもらいました。今後は、このトライアルの実施状況を検討し、さらに充実したショートステイプログラムに練り上げていきたいと思います。

今後は、金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）等の改革を図り、より柔軟で留学生の多様なニーズに答えることのできるプログラムを構築し、国際化・国際交流をさらに充実させていきたいと考えています。そして、短いものからより長い留学へとつながる循環型、リピート型の留学を、さらには日本人学生の派遣留学をエンパワーするセンターでありたいと願っています。

日本文化・社会体験プログラム

「日本文化体験」授業が金沢大学のすべての学生により身近に

石川県は江戸時代の加賀藩の文化を受け継いでおり、人びとの日常生活の中に伝統文化が深く根付いています。また地域産業の中にも、加賀友禅や金箔といった伝統を受け継いでいるものも多く、各地で新しい側面を加えながら生き生きと活動しています。「日本文化体験」という授業は金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）が始まったとき、留学生の受ける授業として1998年に開講されました。この授業の中では留学生が日本文化の生きている現場を訪れ、その場に身を置いて実体験ができるように工夫されています。金箔、漆、大樋焼き、九谷焼、紙すき、座禅、茶道、華道、和菓子などを自分の身体を動かすことによって学びました。「文化体験授業」は日本語・日本文化プログラムの中にも開設され、KUSEP留学生、日本語・日本文化研修生にとって人気の授業になりました。しかし、受講できるのは留学生センター所属の留学生だけで、他の学域や研究科の留学生は受けることのできないものでした。

留学生センター所属の学生以外の留学生や日本人学生で日本文化を学びたい、体験してみたいという要望が高まり、そのために「いしかわ・金沢学」という日本文化体験型プログラムができました。春夏秋冬の年４回、季節に合わせて日本の文化を紹介する講義と実地体験を組み合わせたプログラムです。授業のない土日に開講され、原則として単位は出ませんでしたが、宿泊も入れて２日間通しのプログラムが組めることは「いしかわ・金沢学」の長所でした。

しかし、ここ数年の間に金沢大学の国際化が急速に進みました。金沢大学に留学する留学生の数が急激に増え 500人を超え、今後さらに増加の可能性があります。それらの学生の留学形態もいろいろで、１か月位の短期滞在から正規生まで、従来の留学生像とは変化してきました。金沢大学で学びたいことは様々ですが、共通するものは滞在の長短にかかわらず、日本に触れてみたいということです。今後、文化体験型授業の受講希望者も増えることが予想されます。一方、海外の協定校に留学する日本人学生の数も増え、留学前に日本文化に触れ学習する機会を増やす必要もでてきました。留学生も日本人学生とともに日本を勉強できる機会が増えることを望んでいます。

以上のような状況のもとで、「日本文化体験」をより多くの留学生、日本人学生に開放し身近なものにしようと考え、この秋学期から大幅な改革が行いました。開講クラス数を増やし、内容も伝統から現代までと多様なものにしました。日本人学生枠もとって、留学生と一緒に学べ、単位取得もできるようにしました。単位の必要ではない学生向けには「いしかわ・金沢学」も開講します。

「日本文化体験」授業に関心を持っている学生はぜひ留学生センターのホームページを見てください。留学生、日本人学生、共に日本文化を学びませんか。

総合日本語プログラム
「e-IJLP」の紹介

今年４月に、総合日本語プログラムの CMS（Course Management System）「e-IJLP」（e-learning system for Integrated Japanese Language Program）ができました。総合日本語の授業に登録している全ての学生が自分の履修しているクラスのページにアクセスすることができます。システムには、それぞれのクラスの授業の予習や復習に使える教材があります。また、このシステムを使って課題のファイルを先生に提出したり、質問のコーナーに授業でわからなかった質問を書いて教えてもらったりすることもできます（使い方はクラスによって異なります）。教師にとっても便利な機能がたくさんあります。授業を登録している学生へ一斉に連絡メールを送信したり、学習者の課題を複数の教師で確認することができたり、クイズの記録などを見て学習者の理解度を確認することができます。

総合日本語プログラムでは、今後も学生の皆さんの日本語学習を支援するためにいろいろな工夫をしていく予定です。どうぞシステムを活用してください。

国際教育研究部門

Welcome to Kanazawa University!

『留学生センターニュース』では、毎回、金沢大学交流協定校への留学を経験し本学に戻ってきた学生からの、留学生の皆さんに宛てたメッセージを紹介しています。今回は、平成22年度派遣留学生、教育学部４年生の石川杏紗さんからの心をこめたメッセージです。石川さんは、１年生の頃より、留学生との交流の機会に積極的に参加しながら、ドイツ語の学習にも、誰よりも頑張りました。石川さんのドイツでの留学生活は、大成功だったと言えます！さて、どんなメッセージでしょうか。

留学生のみなさんへ

石川杏紗（教育学部　学校教育教員養成過程　音楽教育コース　４年）

皆さん、金沢大学へようこそ！木々が赤や黄色に色づき、寒風が吹くこの時期、四季に恵まれた日本ならではの美しさを味わっていらっしゃることと思います。そろそろ冬が近づいてきましたが、日本での生活にはもう慣れましたか？きっと友達の輪も少しずつ広がり、日本語にも親しみを覚えてきた頃だろうと思います。

私は昨年10月から今年の９月までの１年間、ドイツのレーゲンスブルク大学に留学していました。日本へ戻ってきた今でも、毎日そのドイツでの生活に思いを馳せています。それだけその１年は私にとって充実したものであり、かけがえのないものとなりました。今回は、皆さんにより良い留学生活を送っていただくために、私自身のドイツでの経験を踏まえて少しアドバイスさせていただきたいと思います。

まず一つ目に、日本語についてです。日本で生活するとき、必然的に日本語を話さなくてはならない場面に多く出くわすと思います。留学生の皆さんの中には、日本語をまだ勉強し始めたばかりで、どうしても日本人と話すときに戸惑ってしまう、という方がいらっしゃると思います。しかし、そこでどうか消極的にならないでください。話すということは一番効果的な学習方法なのです。私はこれまで様々な国籍の留学生に出会いましたが、来たときは全くの初心者でも、どんどん上達して、帰るときには見違えるように上手になった留学生をたくさん知っています。彼らに共通することは、間違いを恐れず、とにかく話すよう努力していたということです。

とはいってもやはり、いざしゃべるとなると緊張しますし、とても勇気がいると思います。そこで二つ目のアドバイスは、チューター制度をフル活用することです。皆さんにはそれぞれ、皆さんをサポートしてくれるチューターがいると思います。チューターは、生活の中で困っていることを相談するだけではなく、皆さんの学習を補助する役割も持っています。もし話し相手がチューターだったら、気軽に覚えたフレーズや単語を使ってみることも出来ますし、さらに間違えれば

それを訂正してくれます。私がドイツにいたときには、残念ながら大学はチューターを一人ひとりに用意してくれませんでした。だから、私はこの日本のチューター制度は特別なものであると考え、皆さんにはそれをぜひ有効活用していただきたいのです。日本で生活するにあたり、共に勉強し、悩みを相談できる最も身近な存在として、チューターと良い関係を築いていってください。それは間違いなく皆さんの生活にプラスになります。

三つ目は、進んで行事に参加することです。金沢は古い伝統が息づく文化都市です。私はここに生まれ育ちましたが、特産品に恵まれ、歴史的な街並み、そして昔からの風習が健在しているふるさとに大変誇りを感じます。皆さんにもその金沢、あるいは石川県の良さを発見していただきたいのです。四季に合わせて市街地では様々なイベントが催されていますし、大学では留学生向けのバス遠足や、小旅行が企画されることもあります。ぜひそれらに積極的に参加してください。実際目で見て、触れることで、すばらしい文化を“体感”することができるでしょう。

最後に日本人との関わりについて、少し注意も交えながら述べたいと思います。私は、日本人が人と接するときに大切にすることは、次の三つだと考えます。それは①協調性、②時間を守ること、③「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉です。①協調性を守ることは、大勢で行動したり話し合ったりするとき特に重要です。もちろん自分の意見を言うことも時には大切ですが、わがままだと思われないためにも、まずは周りの人の考えに十分に耳を傾けてください。②時間を守ることは、これは日本に限らずどこの国や地域においても守られるべきことだと思います。しかし、電車が数分たりとも遅れないで来る日本では、人々は時間に対してとても厳格です。もし約束の時間に間に合わない場合は、少なくとも連絡をするようにしましょう。③「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉は皆さんがきっと一番多く耳にする言葉だと思います。ちょっとしたことでも感謝の気持ちや謝罪の気持ちを言葉で表すことはとても大切で、それは相手への敬意を払うことにもつながります。礼儀を重んじる日本では、この二つの言葉を様々な場面で使えるかどうかが、大きなポイントとなります。しかし、ただ言葉だけを言えばいいというわけではありません。気持ちが伴っていなければ、それは意味がなくなってしまいます。だから、最終的には①②③全てに共通することですが、相手への思いやりが何といっても大切なのです。

以上、長くなりましたが日本での生活についてのアドバイスを書かせていただきました。これからもたくさんの発見や喜び、感動が皆さんを待ち受けていることでしょう。皆さんの留学生活がすばらしいものとなることを心より願っています。

金沢大学セメスタープログラム

2011年度第２期セメスタープログラムが無事終了しました。今年度はオーストラリアのオーストラリア国立大学から４名、ベトナムのハノイ大学から１名の参加がありました。

当初はベルギー、オーストラリア、ベトナムの三カ国から 11名の学生が申し込みましたが、３.11 の影響や奨学金の問題等で大幅に参加者が減ってしまいました。

しかし少人数だったためにできたこともたくさんあったと思います。例えば、人数が少なかったため、合同での食事会や旅行が気軽に行われました。海の日にはチューターと一緒に能登へ海水浴や海釣りにも行きました。

もう一つはチューターの活躍です。今年度のチューターは５人全員が同じ研究室の学生だったため、グループ単位での交流が積極的に行われました。そのことはセメスター生の満足度に大きく影響したと思います。

今年度のプログラム運営のよいところは、来年度にもつなげ、より充実したプログラムへと育てていきたいと思います。

担当　太田　亨、志村　恵、松田真希子
藤澤美保（事務担当）

チューターと能登で魚釣り（2011.7.19）

金箔貼り体験（2011.4.26）

セメスタープログラムに参加して

塩川由利香アリソンサンダーズ
（オーストラリア国立大学）

今年４月から８月まで私は金沢大学で行われていた「セメスタープログラム」という留学プログラムに参加しました。留学では人生初の一人暮らしを経験したり、知り合いのいない全く新しい場所で生きたり、色々個人的に成長出来る事を経験しました。セメスタープログラムではもちろん日本語や日本の文化について勉強しました。プログラムのおかげで自分の日本語能力は期待していた以上に上達しました。他にもたくさんの他国からの留学生達や日本人の学生と教師の方々とお友達になり、プログラムが終了した今でも連絡を取り合っています。セメスタープログラムに参加して私は人として、学生として成長し、今までの人生の中で最高の体験を過ごしました。

奥の右側が塩川さん

金沢大学短期留学プログラム（KUSEP）

私のKUSEP体験

莊 敬 文（Chuang, Ching-Wen）
台湾、台湾政治大学

皆さん、こんにちは。2010年10月から 2011年８月まで金沢大学に留学していた台湾出身の莊敬文です。10 か月の間、日本語の勉強や様々な文化体験ができました。とても素晴らしい留学経験だったと思います。

授業から

日本語コースでは様々な授業を選び、聴解、読解、作文などの訓練をしました。私は台湾政治大学で法律を専門としていますが、2010年12月に日本で日本語能力試験Ｎ２に合格できたのは、日本語コースのおかげだと思います。

KUSEP には他の授業も多数あります。私は東川浩二先生に指導していただいた日本法演習と、日本法ニュースプロジェクトの授業で、日本法の初歩を習いました。そこで日本法についての興味がわきました。将来、また法律の研究をしに日本に行きたいと思っています。

日本文化を体験する授業もあります。私はビットマン先生が教える武道の授業を選びました。一学期だけですが、毎週杖道を練習し、日本武道についてのレジュメも配布してもらえたので特別な視点から日本文化を知ることができ、本当に内容の深い授業だったと思います。

さらに KUSEP では、毎週バスでいろいろなところに行きました。例えば、金沢で金箔を体験し、また大樋先生のところで茶碗を作りました。この他にも、山中で木地を作り、白山では和紙を作るなど、日本の伝統工芸について珍しい体験が出来て、より一層日本文化を理解することができました。

サークルから

日本をもっと知りたければ日本の友達と知り合わなければなりません。私は金沢大学の竹糸会とディベートサークルに入りました。竹糸会で三味線を練習しながら、友達をたくさん作り、忘れられない思い出を作ることができました。ディベートサークルでもメンバーとその時々の議題について討論し、試合を行ってみんなと友達になり、自分の日本語も上達しました。

会館の生活から

KUSEP の留学生は国際交流会館に住んでいました。様々な国からの留学生達が同じ建物で一緒に生活し、自分の国について話をして、仲良しになれる、とてもいい交流の機会だったと思います。

もしできることなら、金沢大学での留学生活をもう一度体験したいです！

私のKUSEP体験（その2）

Delgerekh, Nomiun

モンゴル、国立モンゴル大学

皆さん、こんにちは！モンゴルから参りました、ノミオン・デルゲレフと申します。モンゴル国立大学４年生で、分子生物を専攻しています。小学生の頃から日本語を学習していた私は日本の大学に留学することが夢でしたので、金沢大学にやって来ました。自分がモンゴル国立大学からKUSEPプログラムで金沢大学に留学した一番最初の学生だと知った時、とても嬉しかったです。これからもこの交流が続いていくことを強く願っております。

私は、KUSEP に参加して本当に良かったと思っています。その理由は、まず、授業が面白いことです。特に、三浦先生の「上級読解」は私のお気に入りナンバーワンでした！ 数々の日本の有名な作家の作品を紹介していただき、近代日本文学への興味が益々湧いてきました。岡澤先生とビットマン先生の「日本文化体験」も、座禅、蒔絵、轆轤、和紙作り体験など、日本独特の文化や伝統的なものづくりに触れることができるので、留学生たちの間でも大人気でした。

また、KUSEP留学生でもある程度の日本語能力が認められれば、金沢大学の一般学生のためのカリキュラムから授業を選べたり、自分の専門分野での研究ができるのがとてもありがたいと思いました。私もいくつか難しい授業を取ったり、指導教員の指導のもとで研究しました。

さらに、金沢は、日本でも最も歴史や自然が豊かな街だと言われていて、兼六園、金沢城、忍者寺、長町、東茶屋街などと、本当にすばらしくて素敵な名所が多いですし、食べ物もおいしいです。休日には観光が出来るので、いつもわくわくしていました。

金沢には日本人学生と留学生を対象にしたイベントやお祭りが盛んに行われていて、時には積極的に課外活動に参加することで、日本語のブラッシュアップになるし、いい勉強になると思いました。

今回の留学生活で、私は始めて家族と離れて一人暮らしをしました。不安だったり、寂しかったりと、大変なときもありましたが、今思えば少し成長し、自立できたのではないかなと思います。しかし、私一人では乗り越えられなかったと思います。先生たちや、留学生センターの方々の支援があり、金沢大学国際交流会館で一緒に暮らしていた仲間たちと共に、お互いに助け合って楽しく過ごせたからこそ、無事に留学を終えることができたと思っています。だから、お世話になった先生方をはじめ、金沢大学留学生センターの方々、研究の指導教員の先生、すばらしい仲間たちに心から感謝の気持ちを申し上げたいと思います。

是非また金沢大学に留学したいと思っています。

大学院予備教育（日本語研修コース）

コース紹介

日本語研修コースは、1995（平成７）年後期に第１期を開始し、2011（平成23）年後期で33期になります。2004（平成16）年からは、総合日本語プログラムのＡＡクラスと位置づけられ、対象学生の幅が広がり、短期留学生（KUSEP）等もこのコースに受け入れています。留学目的の異なる多国籍の留学生たちが一学期間楽しく集中的に日本語を学んでいます。

今回は、第20期（2005年前期）修了生のアチェプ・プルコンさんに日本での生活のことを書いてもらいました。アチェプさんは2005年４月に来日し、このコースで日本語をゼロから勉強した後、博士コースに入り 2008年９月に博士号を取得しました。2011年３月まで京都大学でpost-doctoral（visiting researcher）として研究し、2011年４月に金沢大学に戻り、現在まで数物科学系計算バイオ科学研究室助教として勤めています。

三浦香苗（日本語研修コース担当）

日本での生活と日本語の勉強

来日直後の６ヶ月間、日本語研修コースで日本語を集中的に勉強し、その後、総合日本語コースでも勉強しました。そのおかげで日本語ができるようになり、金沢での生活が段々楽になりました。後日、日本のさまざまなところへ行き、住んでいる友達の話から、金沢大学の日本語プログラムのコース・ディサインとカリキュラムが非常によく整備されていることが分かりました。

それでも、来日はじめのころは日本語が分からなかったのでたいへんでした。金沢では英語が普通に使われていません。そのため、アルバイトを探すとき、日本語でのコミュニケーション能力をあまり求められない仕事をさがしました。幸い、新聞配達のアルバイトを見つけて、日本語が上手ではなくても受け入れてもらいました。おかげで、金沢周辺の道や住所が分かるようになりました。

しかし、とうとう、どうしても日本語を使わなければならない時期が来ました。それは専門課程の授業と家族でした。来日して６ヶ月後、インドネシアから家族（妻と娘）を日本に連れて来ました。妻と娘は日本語がぜんぜん分かりませんので、毎日の生活や娘の学校関係のコミュニケーションを手伝わなければなりませんでした。しかし、自分も日本語があまりできないため、娘の学校からの報告を読むとき、辞書を引いて、言葉を一つ一つ調べました。それに、研究の参考書や資料が日本語で書かれている他、ゼミや発表も日本語で行わなければならないので、苦労しました。

金沢は自然に恵まれています。穏やかで勉強するために快適なところです。しかし、雨季と乾季

の二つの季節しかない熱帯国インドネシアから来た私は日本の季節のことで困ったことがあります。はじめて金沢に来たときは春でしたが、とても寒かったです。はじめて雪を見た時はとても感動しました。しかし、雪がだんだん多くなってくると、車を出すときに除雪しなければならないし、娘がすべってころぶので、たいへんでした。

日本で生活して、日本の文化や習慣に深い興味を持つようになってきました。新しいところに引越しした時、ご近所さんにプレゼントを持っていく習慣と、私が金沢大学に戻ることになった時、金沢大学の職員の方が京都大学にきて挨拶したこともとても印象的でした。日本人は近所との付き合いや人間関係を大事にすることに感動しました。

日本へくるのは私の夢でしたが、金沢で今のような生活を送るのは予想以上でした。よいところで、日本人といっしょに生活し、日本人の習慣と文化に触れ、よい大学で勉強し、よい仲間たちと一緒に仕事をすることに恵まれました。インドネシアから金沢大学へ留学してくる学生が年々増えてきていますが、ぜひ、私のような恵まれた留学生活を金沢で体験してほしいと思っています。

Acep Purqon, Ph.D（助教　数物科学系　計算バイオ科学研究室）

31期生

33期生

33期生

33期生

日本語・日本文化研修プログラム

日本語・日本文化研修プログラムの一年間

孫　羽
中国、南開大学

日研プログラムを修了しましたが、戻りたい気持ちでいっぱいです。日研生の一年間の体験は神様からいただいたプレゼントのように、これまでの人生で一番の美しいものでした。金沢での勉強にせよ、生活にせよ、どこにでも自分の成長を見ることができます。

私は留学生センターの総合日本語コースだけではなく、日本人の学生と一緒に院生のゼミの授業にも積極的に参加しました。金沢大学の先生方はちゃんと計画を立て、学生のレベルの上達のために工夫しています。その熱心な指導やまじめな態度には本当に感激しました。私も専門の先生から細かい指導をいただき、この一年間の勉強をきっかけに、研究の道を踏み出しました。

多彩な伝統文化が息づいている金沢では、伝統芸能の体験は欠かせないものです。美術が苦手な私は最初は素晴らしい作品を作る自信はありませんでしたが、心をこめて作れば自分の満足できる作品がきっと出来上がることが分かりました。

なかでも加賀友禅の見学は印象深い体験です。職人たちが描く時の落ち着いている様子を見て、金沢のような落ち着いた町、そしてそのような落ち着いた職人たちがいるからこそ、伝統芸能が代々伝えられてきたのではないかと感じました。金沢でたくさんの伝統芸能が体験でき、とても幸せだったと感じます。

日本語のブラッシュアップや日本文化の体験はもちろんですが、留学生活の中では、日本人との交流も重要だと思います。大学では日本人の友達がたくさんできて、楽しく勉強したり遊んだりしました。そして、里親制度のおかげで、大学外でも、地域に溶け込み、日本の家庭生活を理解するようになりました。里親の方は親切に自宅に招待してくださり、色々とお

世話をしてくださいました。真の両親を離れても、家族の愛を感じることができています。里親への感謝は言葉では表せません。

ほかに、小学校の訪問で自国の事情を日本の小学生に伝えたり、文化演習の授業で各国の文化についてクラスのみんなで討論することなどによって、異文化に対する理解も深まりました。

日研プログラムの思い出は数えられませんが、この文章の最後に、私が授業で書いた短歌を書いておきたいと思います。

「変わらない　僕の信念　いつまでも　最初の心　永遠のこと」[1]

日本に来て、どんなことにも好奇心を持ち元気に体験しましたが、日研プログラムが終わっても、最初の心を失わずに生活していきたいと思います。日研プログラムの美しい思い出はきっと私の命の一部分として生きていくことでしょう。

[1] この短歌は2011年１月13日、杉山欣也先生による講座「若者の文学―石川啄木の短歌」で作ったものです。女性は「僕」を使いませんが、「五、七、五、七、七」の律に応じるために用いました。

日韓共同理工系学部留学生コース

●平成23年度日韓共同理工系学部留学生事業推進フェアに参加しました

８月29日にソウルで開催された留学フェアに参加し、本学の日韓プログラム事業について宣伝しました。今年は卒業生のナム・セガンさん（カリフォルニア大学サンディエゴ校修士１年）と12期生のナム・ギソクさんが活躍し、３時間で13名のブース訪問者がありました。

面談の様子
（奥が鎌田教授、右が川上教授）

７期生のナム・セガンさん（右）
12期生のナム・ギソクさん（左）

●第12期生の予備教育が始まりました

10月から12期生のナム・ギソクさんの予備教育が始まりました。午前中の共通の日本語授業の後、午後はマンツーマンで数学、英語、物理、専門日本語などの専門基礎科目を受講しています。既に日本語能力試験Ｎ１に合格しているナムさんは精力的に外国人や日本人との交流を深めています。半年後の成長が楽しみです。

文化体験の様子

10期生のチョ・ミンチョルさんと

三浦香苗、太田　亨、松田真希子

「プリンストン in 石川（PII）プログラム 2011」

６月15日、留学生センターは、旧文学部と部局間協定を結んでいるプリンストン大学等の学生と、本学学生との交流会を実施しました。

参加したのは県が行っている「短期間石川県で学ぶ日本留学プログラム」(PII)で来県したプリンストン、ハーバード、コロンビア、イエール等の大学生39名。留学生１人ひとりと、エスコート役をする本学の学生がペアを組み、交流を深めました。中村学長の歓迎のあいさつや長野理事の「カンパイ」に続き、交流が始まりました。

キャンパス内にあるすみれ亭での会食後、創立50周年記念館「角間の里」で本学の紹介を兼ねたクイズが行われ、PII側からもアメリカに関するクイズが出題されました。その後、折り紙体験として「はっぴ」と「こま」作りに挑戦し、折り方を教えあいながらさらに交流を深め、３時間の交流会の終わりには、別れを惜しむ姿があちこちで見られました。

第60回金沢百万石まつり「百万石踊り流し」

「いいね金沢」賞受賞（準優勝）

平成23年６月４日（土）に第60回金沢百万石まつり「百万石踊り流し」が行われ、金沢大学の留学生を中心に日本人学生を加えた、総勢117名（うち留学生74名　日本人43名）が「WE LOVE KANAZAWA（金沢市留学生連合チーム）」として参加しました。このチームは，金沢大学留学生センターと「金沢まちづくり学生会議」のメンバーが一緒になって結成したものです。世界各地の民族衣装や威勢の良いハッピ姿で２時間、踊りの練習の成果を充分に披露し、金沢大学創基150年をアピールしました。今年は、参加者１万１千人・63団体の中から、見事２位（準優勝）の「いいね　金沢賞」を受賞しましたが、これは金沢大学のチームとして３年連続の入賞です。

文化体験学習「いしかわ金沢学」
（Kanazawa Studies in Ishikawa）

○秋コース（Autumn Course）

日時：平成22年11月４日（木）

場所：吉野工芸の里（白山市）

講師：山浦定雄氏（和紙造形作家）

内容：石川県教育委員会が実施する「教育ウィーク」への協賛事業として、秋コースを開催しました。白山市吉野工芸の里にて、講師による和紙についての講義の後、紙漉きの一連の流れを実際に体験し、和紙照明を制作しました。出来上がった作品に蝋燭を灯してグループごとに作品を発表し、プレゼンテーションを行うことで、講義だけでなくデザイン能力についても学ぶことができました。参加者たちは、幻想的に灯された和紙の照明に満足した様子で、石川の秋を満喫することができたようです。

○冬コース（Winter Course）

日時：平成22年12月18日（土）～19日（日）

場所：金沢大学地域連携推進センター、尾山神社、キゴ山ふれあいの里、湯涌みどりの里

内容：１泊２日で冬コースを金沢市と共催で開催しました。初日は、日本のお祝い事には欠かせない水引細工の体験を行いました。午後からは、加賀百万石文化を築いた前田利家を奉る尾山神社を訪れ、本殿にて正式参拝を行いました。二日目には、湯涌江戸村でお正月の準備が進む日本の古い家々を見学し、みどりの里にて餅つきを行いました。「いしかわ金沢学・冬コース」を通して、参加者は日本のお正月行事の豊かさに触れることができたようです。

○春コース（Spring Course）

日時：平成23年５月29日（日）

場所：金沢大学地域連携推進センター２Ｆ（講義）、第２体育館（体験）

講師：中野節子教授（金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系）。剣道：中橋文夫氏（教士七段）、平野節夫氏（剣道三段・杖道二段）、大原寅光氏（剣道三段）。杖道：佐々木繁氏（教士七段）、ビットマン ハイコ教授（金沢大学留学生センター、杖道五段）、岡本直子氏（杖道四段）、金子恭子氏（杖道二段）

内容：「日本武道入門」をテーマとした春コースをＮＰＯ法人日本武道修学院協賛のもと開催いたしました。午前中には、中野節子教授に「城下町金沢」に関する講義を受け、金沢の武家文化や豊かな加賀百万石の藩政について学びました。午後からはビットマン教授とＮＰＯ法人日本武道修学院による武道体験を行いました。まず講師による剣道・杖道についての解説を聞き、演武を見た後に２グループに分かれて、３時間の間に基本姿勢や型・技を学びました。参加者は皆笑顔を見せ心地よい疲労感とともに講座を終えることができたようです。

○夏コース（Summer Course）

日時：平成23年７月２日（土）

場所：石川県立能楽堂　本館第二舞台

講師：藪 俊彦氏（宝生流シテ方能楽師（職分）、金沢大学客員教授）、中村 清氏（宝生流シテ方（師範））、中谷信子氏（宝生流シテ方（嘱託））、野村祐丞氏（和泉流狂言師　萬狂言北陸支部代表）、西村 聡教授（金沢大学人間社会研究域歴史言語文化学系）

内容：夏コース「能楽・狂言入門」の体験講座を開催しました。この講座は、宝生流シテ方能楽師の講師から、実際に舞台で使用する能面や能楽器に手を触れて体験し、所作や声の出し方などを学んだ後、和泉流狂言師の講師による狂言についての講義と実際に体験を行います。その後石川県立能楽堂「観能の夕べ」にて狂言「柑子」と能「半蔀」を鑑賞するコースです。参加者は日本に伝わる伝統芸能の能楽にじかに接することで、日本の良さを再発見することができたようです。

相談指導部門

留学生のみなさん、ようこそ金沢大学へ

金沢の冬は寒く、雪もたくさん降りますが、キャンパスや地域の方々との心暖まる交流を通して、日本での留学生活を楽しんでください。

金沢を知りたい、地域の人々や日本人学生と交流したい、と思っている留学生のみなさんに、国際交流活動を行っている団体と活動内容を簡単に紹介します。交流活動を通じて、みなさんの日本についての理解が深まる事を願っています。

国際交流のための学生団体KISSA（金沢大学公認）

金沢大学には現在、多くの日本人学生とおよそ 500名の留学生がいます。その多種多様なバックグラウンドを持った人たちが能力を発揮できる場を作りたいと KISSAは考えています。KISSAの目的は次の２点です。

１．国際交流というキーワードを通じて人・情報が集まる場の提供

２．様々な出会いを通じて、学生生活を楽しみ、関わる人が成長できる機会の提供

そのため、「参加者も一体となったイベントづくり」が KISSA の特徴です。

この団体に参加する人は、イベントや企画を作り上げる構成員の一人であって、ゲストではありません。メンバー全員が一緒に作り上げて行く事こそ、真の交流になると考えているからです。留学生のみなさん、私たちの団体に参加してみませんか。そして、KISSA の目的を達成できるような活動を一緒にして行きましょう。

○活動場所　総合教育棟　464号室（月ー金　8：00ー20：00）
人社講義棟　１階　学生談話室

○問い合わせ先　kokusaikoryusitu@yahoo.co.jp

○活動内容　インターナショナル・カフェ　ランゲージコースなど

○その他　学内にポスターを張ってあります。見てください。

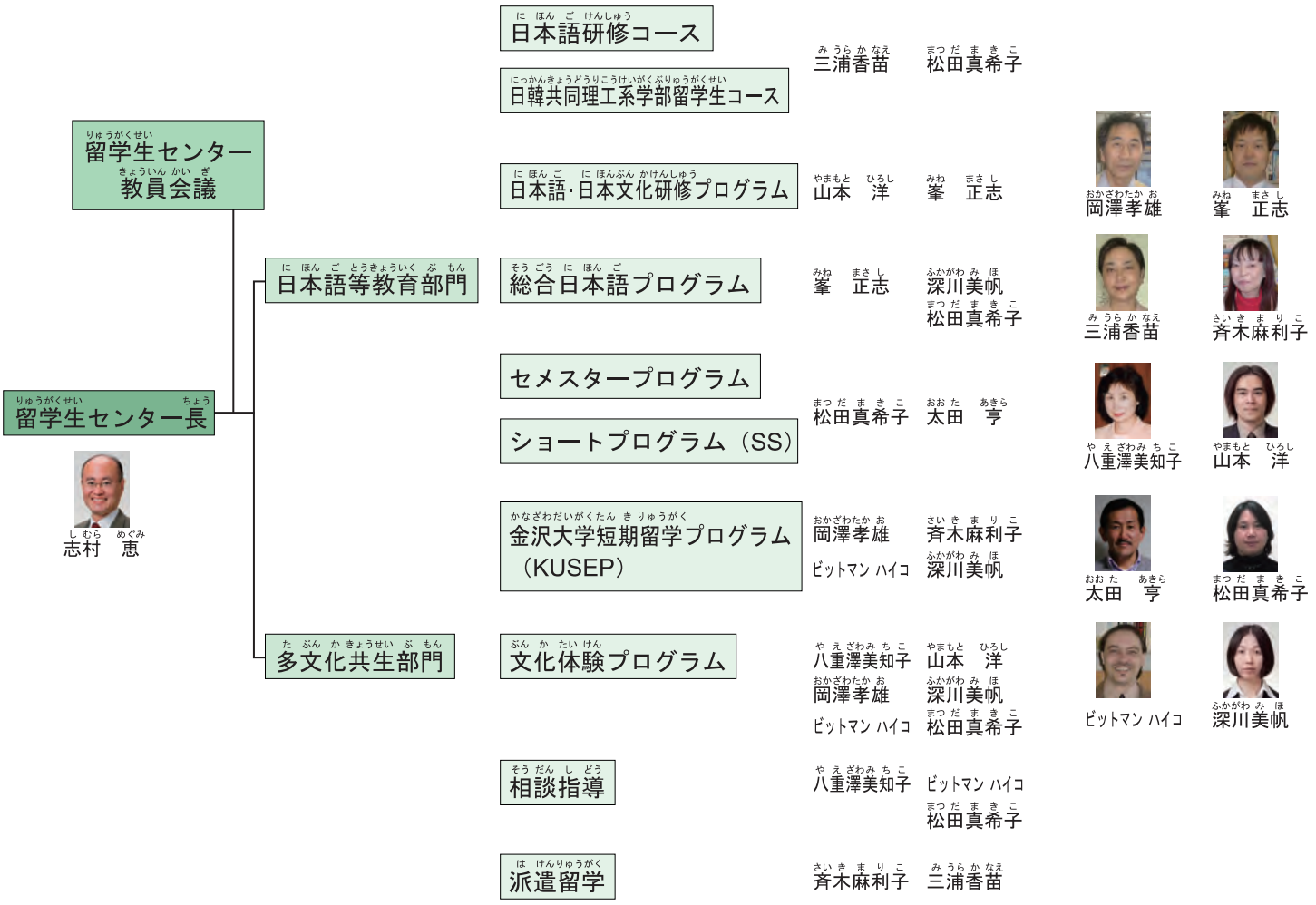
ことばと文化の架け橋プロジェクト

地域で活動している様々なボランティア団体に対して、留学生が出身国の状況を説明する「報告者」として参加するプロジェクトです。防災・農業・絵本の読み聞かせなど、日本人が知りたい異文化の事を説明し、交流を深めます。

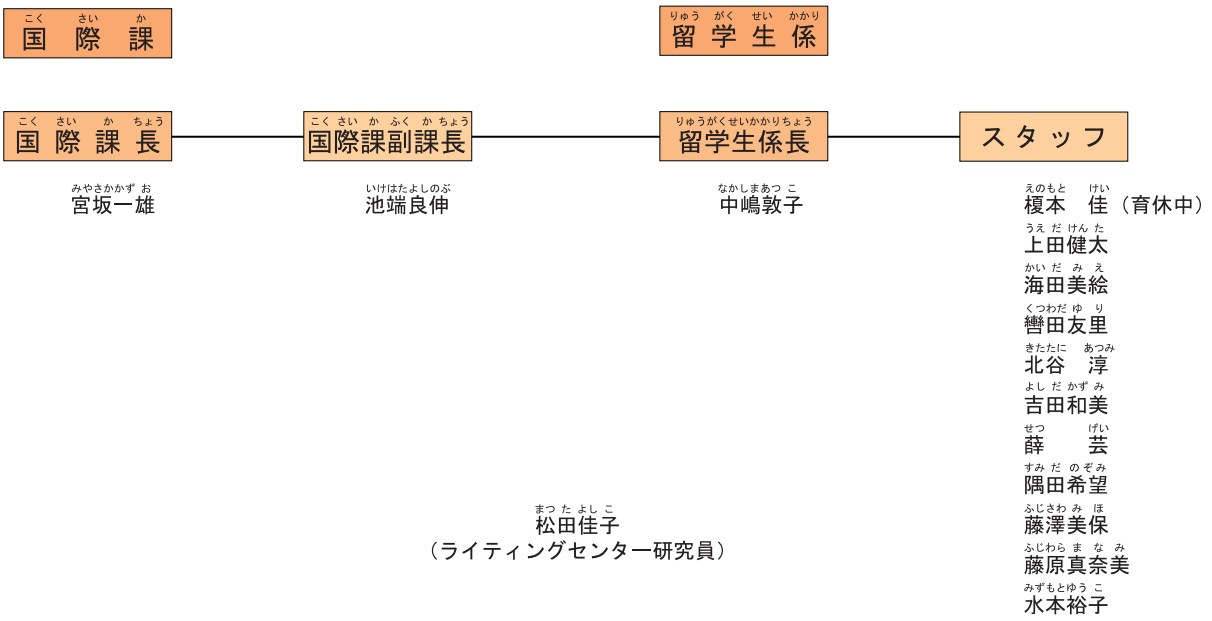
「報告者」として参加したい留学生は、岡沢先生（okazawatak@yahoo.co.jp）に問い合わせてください。

この他にも、まだまだ多くの国際交流団体・活動があります。
積極的に参加し、豊かな留学生活を送ってください。

留学生センター組織（2011年度）



国際課留学生係組織（2011年度）



留学生センターのホームページが新しくなりました！

留学生センターのホームページが新しくなりました。

ポータルページに最新のニュース写真を配置し、Google翻訳で英中韓以外の言語にも簡易翻訳する機能が加わりました。ぜひ、一度訪問してください！

http://isc.ge.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学留学生センターニュース　第15号

2011年12月28日発行

発行　金沢大学留学生センター
〒920-1192　金沢市角間町
TEL（076）264-5188
FAX（076）234-4043
ryuiku@adm.kanazawa-u.ac.jp

この冊子は、植林・森林認証取得木材使用など環境ISO取得工場にて作られた用紙を使用しています。